

よこはま市商連

No.192

2022年(令和4年)

2月号

発行 一般社団法人横浜市商店街総連合会

発行人 石川清貴

〒231-0048 横浜市中区蓬莱町2-4-1-5F

TEL045-250-6613 FAX045-262-2077

制作 場所づくり研究所(有)ブレイス

<http://www.yokohama-syoutengai.com>

大日本プロレス プロレスラー

石川勇希 選手

栄区商店街連合会会長

本郷駅前商店会会長

田鹿曜二 会長



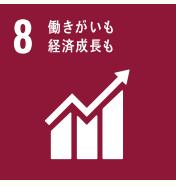
商店街も出来ることから

SDGs 宣言!

「SDGs」に紐付けて
商店街活性化を考える

ここ数年、新聞テレビやまちなかで「SDGs(エス・ディー・ジーズ)」に関する取り組みのニュースや記事を多く見聞きするようになりました。「SDGs」とは国連が定めた、よりよい世界を目指す持続可能な国際目標のこと。2030年までに世界中で達成すべき健康や福祉、教育、気候変動などの課題に関する17のゴールが掲げられています。抽象的且つあまりにスケールの大きなテーマゆえ、海の向こうのどこか他人事のような印象を持ちますが、実は商店街がこれまで取り組んできた事業に意図せず「SDGs」の目標達成につながるもののがたくさんあるのです。これからはその取り組みを「SDGs」に紐付けて焼き直し、意識的にPRしていく視点を持ちましょう。また、「SDGs」の視点を加味した新たな商店街活動を一考してみてはいかがでしょうか。今号では「SDGs」の達成に紐付けた新たな取り組みを開始し、「SDGs」を活用して商店街の活性化に繋げようと、いち早く動き出した商店街を紹介します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



日本社会のあらゆる場で推進される「SDGs」。今やまちの小さな企業から大企業まで「SDGs」は避けては通れない課題となっています。「SDGs」を上手に活用、またPRし、ビジネスチャンスの創出やイメージの向上、組織の成長に繋げている企業も増えています。小中学校でも教科書で「SDGs」を学習する時代で子どもたちの認知度も高まっており、若い世代ほど周知が進み、その意識も高いと言われております。これからは地域コミュニティの担い手である商店街も「SDGs」への理解、取り組みが求められていくことになるでしょう。



**神奈川県・
相模原市緑区
リリーマート商店会**

**事例
1**



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

- 2 経済成長
- 3 氷河を守る
- 4 教育をみんなに
- 5 エネルギーをみんなに
- 6 清潔な水と衛生
- 7 安全なエネルギー
- 8 働く権利
- 9 地域開発
- 10 経済成長
- 11 経済成長
- 12 つくる責任
つかう責任
- 13 気候変動に
具体的な対策を
- 14 食材を守る
- 15 経済成長
- 16 フレンドシップ
- 17 パートナーシップで
目標を達成しよう

貢献できた目標



4 質の高い教育を
みんなに



12 つくる責任
つかう責任



13 気候変動に
具体的な対策を



17 パートナーシップで
目標を達成しよう



JR横浜線、京王相模原線の橋本駅から3km程離れた県営大島団地のほど近くに位置する46年続く地域密着型の小さな商店街。ご多分に漏れず団地の高齢化や入居者減により商店街は年々元気をなくし、店舗の撤退も相次いでいました。コロナ禍でさらに状況が厳しくなるなか就任3年目の若き飯塚代表は商店街生き残りの手段として「SDGs」を前面に押し出した商店街づくりを手掛けたことを決意。「いよいよ魚屋、八百屋も閉店してしまい、総合スーパーの移動販売車が地域の

買い物を支えているという、我々にとっては厳しい現状がありました。そこで、商店街として『地域の役に立つ』という本来の目的を果たすため、また、新たな魅力づくりに、と目を向けたのが『SDGs』への取り組みです。私が(公社)相模原青年会議所で『SDGs』を学ぶなか“これだ”と思い、会員に理解を求めました。手始めに商店街が打ち出す姿勢を明確に周知するため、6店舗ある18枚のシャッターに17色の鮮やかなアイコンを描き、一新しました。「今までただ通り過ぎていた大人が『どうしたのかしら?』と足を止め、子どもたちが『SDGだ!』と指差していました。まずは商店街に関心を持っていただけたことが大きかったと思います。正直、会員たちも最初は『SDGs?代表が何かいいことを言っているし、シャッターが綺麗になるに越したことではない。』といった捉え方だったようですが、しだいにお客さんとの会話に『SDGs』が上がるようになり、意識が変わっていきましたね。」。地元紙に「SDGs」シャッターの記事が掲載されると、それまでお付き合いのなかった地元の中学校から早速問合せがあり、「SDGs」に関する教育の手伝い[4 17]を依頼され、商店主との交流がスタート。続いて小学校とは、5年生が「地域の魅力を自分たちで考える」という観点から発案したお弁当メニューを、商店街飲食店が再現し販売するという企画も生まれ、この2月1日より予約販売が開始されました(期間限定)。「小さな商店街ですから我々の負担少なく対応出来る、“身の丈に合った”事業にトライしています。」。また、6時に閉店するパン屋では、売れ残りのパンをそれ以降に営業する飲食店にて半額で販売、売上はパン屋に[12 13]。「明日の朝食にちょうどいい、と飲んだ後に買っていかれる方も。最初こそパン屋さんも金額を下げる販売、他店への委託販売に躊躇されていましたが、今では売れ残りがあれば飲食店を持って行く、という流れが定着しています。このような感じでフードロスの観点から手掛けましたが、店同士の宣伝につながっていけば、と思います。」。ほかにも、ペットショップの従業員が個人の畑で育てている新鮮な野菜をシャッター前で朝から無人販売することにしたところ[12 13]、八百屋が閉店してしまった背景もあり、近隣の方に大変喜ばれ、また口コミで離れたところからわざわざ車で買いに来るお客様も増え、想定以上の来客を生んでいます。また、地元自治会と協働して、不要になった衣類を回収するボックスを設置。利益を海外の教育が受けられない子どもたちのために役立てるNPO法人をインターネットで探し、定期的に回収に来てもらっています[4 12 17]。「『SDGs』宣言をしたことで地域とのつながりが生まれ、商店街に足を運んでいただくきっかけをつくれました。一般企業のように商店街内で『SDGs』のビジネスを構築し利益を出すことが最高のゴールだと思っていますが、まずはハードルを上げず持続していくことが大事だと思っています。」。



のつながりが生まれ、商店街に足を運んでいただくきっかけをつくれました。一般企業のように商店街内で『SDGs』のビジネスを構築し利益を出すことが最高のゴールだと思っていますが、まずはハードルを上げず持続していくことが大事だと思っています。」。



横浜市港北区 日吉商店街協同組合

事例
2



貢献できた目標



防犯パトロールで地域がひとつになる



東急東横線日吉駅西口に放射線状に5つの通りが広がる同商店街。大学や高校などの教育機関が点在し学生の姿が多く見られます。人通りには申し分はないものの、商店街としての個性はなかなか打ち出せず、これまで学校や地域との連携を取り切っていました。「地域をつなげていく“新たな何か”を模索していたところ『SDGs』が日吉の“地域の共通言語”にマッチするのでは、ということになりました。教育や文化、環境への意識が高い地域で、その素地はあるので『SDGs』を商店街の理念に掲げ、前面に押し出した取り組みを開始することに。社会の流れにいち早く乗ってみよう、と“えいや”で始めましたが、最初は商店街内部でも『何なの、それ?』という反応もありましたね(笑)。」と理事の西脇秀人さん。早速「HIYOSHI SDGs Action」と銘打ち、一昨年の緊急事態宣言終わり頃、飲食店のテイクアウト支援事業として商店街内に特設ブースを設置してイベントを開催 [**3 17**]、9店舗が参加しました。お客さまに喜ばれると共に、飲食店同士横の新たなつながりを生みました。続いて「マスクを必要な人へ届けるプロジェクト」を立ち上げ [**3 17**]、5店舗に未開封未使用マスクの「寄付用回収ボックス」を設置し、1,416枚ものマスクを港北区役所に寄贈しました。さらに、コロナ禍でも活動がしやすく、世代を超えて人と人をつなげられるコンテンツとして「まちの緑化」に注目、商店街と町内会が中心となって地域の緑化活動を担う「日吉グリーンアクション」を昨年組織化。駅前や商店街歩道にプランターを設置し、その維持管理を連携して行っています [**11 15**]。その延長で近隣企業や行政を巻き込んで定期的に商店街エリアの防犯パトロールも行い、地域の顔ぶれが一同に集う貴重な機会となっています。そして、それらの活動が一部の人間の地域活動となることなく、「見える化」することで多くの人が地域活動に巻き込むことを目的としたコミュニティ電子地域通貨サービスを昨年春に導入へ [**11**]。通貨単位は日吉(ひよし)の響きにちなんで「ぴよ」に決定。地域活動をはじめ、加盟店舗での「雨の日の買い物」「テイクアウトの容器持参」などで「ぴよ」がもらえ、貯まった「ぴよ」でプレゼントとの交換やお買い物、サービスに利用できるというもので、地域活動参加を来街創出につなげています。「持続可能とするためには、お客さんにはもちろん、お店にもメリットが必要だと考えました。また、直接『SDGs』の活動に関われない店にも、間接的ではあるものの地域貢献に参加しているイメージを持ってもらいたいという思いもありました」。この先、双方の登録者数が増えれば、地域経済の活性化、まさに“お金の地産地消”になると想っています。「『SDGs』は日吉の人と人をつなげる共通のキーワードだと感じています。改めて商店街を見つめ直すと、街路灯のLED化など環境に配慮した既存事業もあれば、環境や雇用など、これから『SDGs』に絡められることもたくさんあると思います。まだまだ道半ばです。」。



QRコード読み取りで「ぴよ」を取得

日吉を緑のまちへ

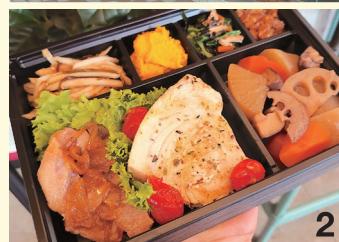
「SDGs」という世界中の誰もが、つまりは地域の誰もが共通して目指すべき目標を掲げることで商店街内部、商店街同士、地域と協力し合える「つながり」をつくることが出来ます。個店単位で「SDGs」の取り組みをしているところはあるはずなので、その情報を商店街で集約しPRしていくこともできるはずです。若手会員の中で「SDGs」の情報を理解し、かみ砕いて商店街内部に落とし込めるキーマンと言われるような旗振り役が見つけられれば尚よしです。全国的に「SDGs」を公言した商店街の取り組み事例はまだ多くありません。長引くコロナ禍で商店街として出来ることが限られてしまう今、それぞれの商店街の実情を鑑みた取り組みを考えて「商店街のSDGs」の先手を打ってみませんか。

屋号の「コンレマーニ」はイタリア語の「両手で」を意味します。矢幅宏至さん、英美さんご夫婦は揃って手仕事の職人。それぞれが彫金師、衣装デザイナーとして活躍するなか、地域に根差した仕事も手掛けながら人や商いをつなげていただける場を持ちたい、と宏至さんの地元で作業場を兼ねたカフェ&セレクトショップを開業しました。お二人の作品はもちろん、カフェメニュー、そして雑貨から食料品、無農薬野菜に至るまで扱う品はすべて「手」をかけてつくられた店主夫婦が自信を持つてオススメできるモノのみ。さらに、本職の技術を活かしてアクセサリー、洋服のお直し、リフォームなどといった地域の小さな困りごともきめ細やかに対応しています。「多様なジャンルに挑戦することは本職にもプラスになります。また、店を知るきっかけは紅茶だったり、はたまた石鹼だつたり、入口を広げることで商品のいちファンから丸ごとお店のファンになつていただけたらと思っています。」。

コロナ禍に商いの幅を広げる



1



2



3



4

1 ガラス張りで開放的 2 デリも「手」を掛けた作品そのもの 3 こだわりのオリジナル商品 4 (写真左より) 英美さんと宏至さん



地域で愛され
続けるには
理由がある!

横浜の商店街 “いい店”探究

5年前、小さな商店街の一角に、とびきりオシャレなお店が現れました。手間暇かけた「もの」「こと」の価値の大切さを伝えていく、その商いのひとつひとつに店主夫婦の生き方や思いが詰め込まれています。卓越した技術と洗練されたセンスを存分に活かしてお客様のかゆいところに「手」を届かせてくれる究極の個店です。

青葉区
奈良北
商店会

CON LE MANI(コンレマーニ)
奈良町1670-221 ☎530-5647

「二人揃つて大の食いしんぼう(笑)、美味しいモノへの探究心は本職に負けていません(笑)。」と英美さん。こだわりの食材を使って丁寧な手作り料理を提供してきたカフェスペークスはコロナ禍で縮小し予約制に。その代わりに、と本格的にデリ弁当販売を開始したところ大好評。新たなお客様との出会いも生まれ、さらに「コロナでそのクオリティと味が評判となり、遠方から数十個のまとまつた注文も受けるように。宏至さん自ら車で配達に回ります。また、「白ごはんはうちに用意が出来る。」との声に呼応して生まれた「おかずだけ弁当」

閑散期の花農家のハーブを食用に活用した手作りソーセージ屋の「ハーブソーセージ」をプロデュースするなど、地域の商いをつなげた共同制作商品や、自店のオリジナル商品の開発にも力を注いでいます。そのパッケージデザインひとつもこだわり、スタッフでもあるプロのイラストレーターが手掛けます。地域にある良いものや技術を組み合わせれば魅力ある商品が生み出せる、それを売上にもつなげていくことで地域の活性化に貢献したいと考えます。「開発商品をきっかけに双方の店にお客さんが足を運んでいただけたら。地域でいいものを伝えし合える仲間を増やしていきたいです。」。

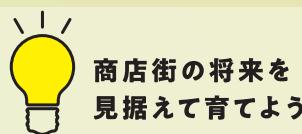
地域のビジネスを生みたい

も夕飯のお助けに大人気です。作れる数量は限られるのでこちらも基本は予約制、SNSを駆使して日替わりメニューや紹介し、販売数や残数も丁寧に配信しています。「うちの業態をお客さんが理解してくれているから即売切れも許してもらっています。いつのまにか半シャツターの日は物販のみが買える日、フルオーブンだとデリも買える日、という暗黙のルールも定着(笑)。喜んでいただきたい、お役に立ちたい、がモノづくりの原動力。「衣」も「食」も同じです。」。

商店街会長との出会い

同区平戸出身の山村さん。高校時代の部活は野球、スポーツに携わる仕事に就きたい、とスポーツ系専門学校に進学後、次第に興味はケガの治療へ。両親を説得して医療系専門学校に再入学、柔道整復師の資格を取得しました。その後同整骨院を運営する会社に就職し、現在は院長を任せられ地域に根差した医療を目指しています。日々患者さんとのつながりは生まれる一方、近くの店との接点は特にないまま。また、立地が商店街の中心エリアからは離れていることもあり、「駅前の商店街は賑やかだな。」と商店街を無縁なものと捉えていたそうです。ある日、患者として通院していた同商店街山崎会長より期せずして商店街への誘いを受け入会。以後、施術中に商店街やまちに関する雑談を重ねるなか、今度は理事への打診が。「正直驚きましたが、山崎さんの人柄を知っていたので僕によければ、という気持ちでした。」。

商店街自慢の 次世代リーダー発見!



商店街の将来を見据えて育てよう

戸塚区

戸塚宿ほのぼの商和会 理事

南戸塚整骨院
村大地(30歳)

今年度、その人柄を見込まれて20代にして理事に大抜擢。商店街育ちではない上、コロナ禍で商店街活動の機会は少なく、「わからないことだらけのまま。」と恐縮しながら先輩理事たちの前向きな姿勢に惹かれ、自身の出来ることを模索中。フラットで風通しのいい組織運営が若手の心を響かせています。



1若くして院長と商店街理事を
担う山村さん **2**商店街の先
輩理事たちもここでは患者さ
ん **3**イベントのチラシづくり
にチャレンジ



商店街の魅力を伝えたい

しつつ、事務局があることで事務業はスムーズに進捗し、会員が顔を出せる場があり、結果として会のまとまりも生まれ、理事はプロジェクト毎にチームとなつて企画や準備に邁進する。「この商店街はきっと恵まれた商店街だ。」と感じたそうです。

昨秋初開催した「ほのぼの川柳コンテスト」では得意のP.C技術を生かしてチラシを制作。また、近隣高校との「マイタケプロジェクト」ではドリルを借りて先輩たちと竹灯籠づくりを初体験。「まだ手伝いといった域の活動しかできていませんが出来ることから挑戦です。」商店街の楽しさを肌で感じた山村さんは、「よその商店街を知らないのですが。」前置き

店とのつながりが増え、地域に根付く日々の心地よさを実感すると同時に、思いがけず自店に新規の患者さんが増えたそうです。「口」「ミ」と思いますが、商店街の活動を行っていると患者さんとの会話で自然と他店の話も出ますし、僕も知つておるお店が増えてよく足を運ぶようになりました。地域のつながりの大切さを痛感します。」自身のそんな「入会してよかつた。」を他業種の同世代にも上手に伝えて仲間を増やしていくのが、山村さんの理事としての目標です。

同商店街の会員にアンプティサッカーの日本代表選手がおり、会員で毎週のようにサッカーを楽しんでいるそう。「皆さん元気でびっくりしています。でも、どこか痛められたらウチに来てくださいます(笑)。」
(*切斷障がいのある人が行う7人制サッカー



保土ヶ谷区・天王町商店街協同組合
次回は恒例のビアガーデン復活を!

ム連
プロ市商
**「商店街プロレス
2021シリーズ
終了」**

昨年度開催中止となつてしまつた「商店街プロレス」が2年振りに商店街に帰つてきました。コロナ禍で元気をなくす商店街にパワーを届けてくれました。感染防止の観点から人數制限や拍手での応援のお願い、「子どもプロレス教室」の中止など、さまざまな制約はあるなかでしたが「商店街プロレス」の人気は健在、どの会場も開催を待ちわびていたお客様の笑顔であふれました。「周知を差し控えたため、集客に一抹の不安もありましたが杞憂に終わりました。何より子どもたちの控えめで一生懸命な応援に胸が熱くなりました。」と12月12日(日)に開催した富岡みどり会商店街の門馬会長。



神奈川区・反町駅前通り商店街
よしもとお笑いショーも開催!



中区・ひらがな商店街
ついに中区で初開催!



栄区・本郷台駅前商店会
会場にてプレミアム商品券を販売!(即完売)

昨年11月16日(火)、横浜市商連正副会長が横浜市星崎経済局長を訪問。「商店街の役割をさらにご理解いただき、令和4年度予算編成において、各種予算を十分に確保していただきたい。」と要望書を提出しました。

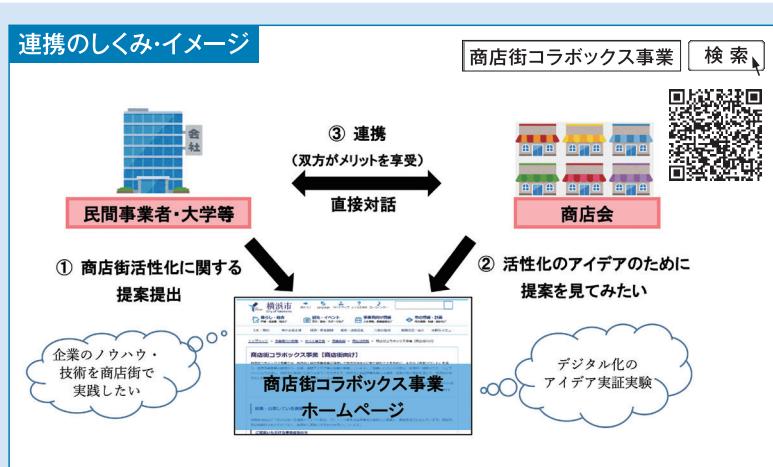
連商口ム

おなじみの「ハピゴラ！」に「大日本プロレス ハピゴラ！屋」が仲間入り。大日本プロレスに所属するプロレスラーが「商店街のお役に立ちたい！」と商店街を訪問し加盟店の手伝いや食リポに挑戦！商店街の魅力をたっぷり伝えてくれています。

「大日本プロレス
ハピゴラ！屋」
配信中(YOUTUBE)



金沢区・富岡みどり会商店街
大サービスの抽選会を開催!



【注意】

提案の実施に際し費用かかる場合や、事業者等との対話の結果によつては、連携や事業が実現できないことがあります。

経済局では、事業者等から、商店街活性化に向けたアイデア等の提案を募集しています。このたび、商店街と事業者等の連携支援として、事業者等の提案を横浜市ホームページで公開する「商店街コラボックス事業」をスタートしました。

ム所役市フロ
「商店街コラボックス事業
スタートのご案内

【お問合せ】
横浜市経済局商業振興課
045(671)3488

大規模小売店舗の計画と届出書類を

届出の内容(令和4年2月15日現在)

大規模小売店舗の名称(所在区)				主な小売業者	新設する日	店舗面積(m ²)	縦覧期間・意見受付	
							開始日	終了日
(仮称)保土ヶ谷常盤台複合商業施設(保土ヶ谷区)	(株)ピック・ライズ	R4.7.23	2,364		R3.12.24	R4.4.25		
(仮称)イオンスタイル天王町(保土ヶ谷区)	イオンリテール(株)	R4.7.23	16,500		R3.12.24	R4.4.25		

NEWS

みんな集まれ!!
「お祭り広場」

昨年11月23日(火祝)、瀬谷区商店街連合会が会員店舗の屋外駐車場にて「お祭り広場」を開催。コロナ禍において単会主催のさまざまなイベントが中止になるなか、感染の落ち着いたタイミングを見計らい、地域の皆さまに楽しい時間を過ごしてもらおう、と同イベントを企画。当日は秋晴れのもと延べ1,600人ものお客さまが来場、地元の団体によるステージ発表を始め、露店、地元小学生が育てた新鮮野菜の販売、パトカーの試乗体験など、思い思いに楽しんでいただきました。「『何か楽しいことをしてもらえないか』、商店街に寄せられた地域の期待にお応えしました。お客様の笑顔あふれる商店街のイベント風景は本当に久しぶり。やはりこれですね! 集まってくれたお客様、ご協力くださった関係者の皆さんに感謝感謝です。」と伊藤会長。



「自然石手刀割り」を披露する伊藤会長



子どもたちの可愛いフラダンス



大人気のパトカー試乗

合言葉を伝えて
御菓子と交換

昨年10月31日(日)、旭区・わかば会が「ハロウィンお化け探し」を開催。例年は仮装をした子どもの練り歩きを開催していましたが昨年は中止に。今年はコロナ禍でも楽しんでもらえるように、とゲーム性を持たせた内容に一工夫。当日お買い物をするともらえる参加券に書かれたヒントを頼りに、商店街内にいる3匹のお化け(3つのキーワード)を探し、つなげた合言葉を交換所で伝えると御菓子がもらえるというもので、仮装をしているとダブルプレゼント。参加券を片手に仮装をした子どもたちがキーワードを探して商店街を楽しそうに回遊していました。「あいにくの天気でも子どもたちは元気ですね。イベントをすると子どもたちの姿がいつもよりたくさん見られて嬉しいです。いい光景です。」と後藤会長。

PHOTOスポット前にて
後藤会長

キーワード「みーつけた!!」



NEWS

デジタルスタンプラリー開催

昨年12月1日(水)~26日(日)、港北区商店街連合会が「こうほくの商店街ちょいより散歩」を開催。食べ歩きを楽しめる人気の恒例イベント「ちょいつまみウォーク」をコロナ対策で昨年より内容変更しました。区内10商店街の参加店舗にて、会計時にレジ周辺に設置されている二次元コードをスマホで読み取り、参加登録。2回目以降は自動でスタンプが貯まり、3個貯まると商店街厳選の商品が当たる抽選に何度も応募できるというもの。必要なスタンプ数を昨年度の11個から3個に見直し、参加のハードルを下げました。「2年目で周知も進んだようで、初日から皆さんスマホ片手に来店してくださいました。年配の方も会計時にササッと読み取られています。」と参加店店主。



参加店目印のタペストリー



二次元コードを読み取るだけ



編集後記

地域の皆さんの期待に応え、工夫をこらして開催される商店街イベントは例年にもまして反響が大きいようです。出来ることから実現していく、今年はそんな1年にしたいものですね。今年もよろしくお願ひいたします。(F)&(N)

NEWS

「ハロウィン」で
商店街そぞろ歩き